

発疹期に航空機利用があった麻しん輸入例対応

○西田敏秀 久保田菜月 伊藤政子 戸敷優子 時任麻理子 黒木恵太郎 藤元一美
成松久美子 木原美輝男（宮崎市保健所） 長崎一記（宮崎市福祉部）

1 はじめに

宮崎市内に海外から帰国した 20 代女性の麻しん事例が発生した。県、医師会、検疫所等と連携して感染拡大防止策を講じ、2 次感染者を出すことなく終息となった。対応する過程において様々な課題を認めた。終息後、県医師会公衆衛生・感染症委員会での報告を行い、地域での感染拡大防止策について考察したので報告する。

2 事例の探知と対応

日時	事象	対応
5/18(木) 午前	市内医療機関より麻しん疑い患者の第一報	検体採取
	患者調査・検体確保	検体受け取り→搬送
18 時半頃	麻しん PCR 陽性の連絡あり	所内会議実施
	厚生労働省・検疫所・県・医師会への情報提供 航空会社へ搭乗者名簿の提供依頼	
5/19(金) 午前	成田・羽田空港管轄保健所へ情報提供	
午後	記者発表 宮崎空港利用者への注意喚起	
	接触者への緊急接種(1名) 医療機関での調査・接触者名簿提供 航空会社から搭乗者名簿提供	接触者調査(~6/7 まで) 接触者調査依頼(管外)
5/20(土)	接触者への緊急接種(10名)	
6/14(水)	終息宣言(期間中の接触者への検査 3 件→新たな感染者なし)	

患者は海外（タイ）滞在中の 5 月 12 日に 39 度の発熱があり、15 日に発疹が出現。同日現地の医療機関受診、咽頭炎と診断された。17 日に帰国し、午後に宮崎市内の 2 医療機関を受診。18 日午前に検査依頼あり、麻しん PCR の結果、陽性と判明した。

予防接種歴は 2 歳時に 1 回の接種であった。

図 1 患者の経過



3 課題及び考察

今回、感染拡大に至らなかったのは幸いであったが、要因としては、最も感染力の強いカタル期を過ぎていたことが考えられる。しかし、発疹期であっても感染の可能性はあることから、航空機利用者に感染させている可能性があった。特に平日日中の航空便であったため、市外の乗客も多く、接触者調査は医療機関での接触者も併せて 200 人を超えた。

特に、航空機利用者は氏名、電話番号のみの提供であり、他自治体や保健所への情報提供が困難であった。また、調査に協力の得られない接触者もいた。緊急接種は、抗体価が低い可能性のある 20～30 代を中心に 11 人に実施した。

県医師会公衆衛生・感染症委員会では、受診医療機関の共有をどこまでの範囲で行うか、また、麻しん抗体価の把握について検査法を統一した方が良い（EIA 法）、現場での MR ワクチンの不足と接種実績の差がある、等の意見が出た。

受診医療機関の共有については、個人情報保護の観点からあまり広くしすぎるのは好ましくないが、今後伝達範囲や内容についての検討が必要と感じた。抗体の検査法に関しては、平素からの予防接種状況の把握や抗体検査などの実施が重要であるが、検査法を統一していないと、実際の対応時に混乱する。また、今回緊急接種を 11 人に行ったが、ワクチンが不足しているとその対策も困難になるため、ある程度余裕を持って供給されることが望ましい。国や製薬会社へも要望していく必要がある。

その他、対応の中で苦慮した点としては、接触者の受診医療機関の調整と、接触者への対応の周知がある。

今回の事例では、接触者の受診対応可能な医療機関を医師会を通じて照会し、28 か所の医療機関が手上げをしていただけたが、今後麻しんの診断経験が無い医師が増えていくと考えられる中で、受診対応可能な医療機関の確保が困難となる可能性がある。

また、接触者の中には未成年者も含まれたことから、注意事項等の連絡は保護者等へすることになるが、家族内で情報の共有ができておらず、保健所への連絡無しに医療機関受診をされた例があり、接触者への周知方法も検討する必要があると感じた。

今回、接触者への検査を 3 件実施したが、うち 1 件は予防接種実施者で、接種 10 日後に発熱等があり、検査をしたところ PCR 陽性となり、発生届が提出された。その後、株の判定をしたところワクチン株であったため、発生届を取り下げた事例であった。この事例も、麻しん感染の可能性を考慮した対応（接触者への周知等）は行っているが、予防接種実施時には、こういった事象も起こることを考慮する必要がある。

予防接種を行っていない事例では、PCR 陽性で麻しんと判断するが、予防接種を行った直後の事例であったため、ワクチン株の可能性を考慮し、判定結果を待つ判断した。

4 まとめ

今回の事例は幸運にも 2 次感染者を出すことなく終息したが、関係機関との情報共有や情報収集の手法、ワクチン不足への対応、受診医療機関の確保、接触者への周知方法等の課題があった。今後も輸入事例は避けられないと考えられるため、今回の課題を今後の対応につなげていく必要がある。